

### <乳幼児について>

乳児期（0～2歳）は、五感を使って周囲を認識していく時期です。また聴く力が育ち、急速に言語を獲得していく時期でもあり、身近な人の語りかけが特に大切です。子守りうたや、わらべうた、また好きな絵本を開いての温かい語りかけを、くりかえし体験しましょう。言葉の響きやリズムに反応し、まねることにより自発的に言葉を発するようになります。

幼児期（3～5歳）に入り、3歳くらいになると数分間の読み聞かせにも集中できるようになります。「認識絵本※〇〇」、生活絵本、乗り物絵本や動物絵本などに加え、簡単な物語も楽しめるようになります。4歳頃からはお気に入りの絵本ができた、しっかりとした筋のあるおはなしを聞いて楽しむことも増え、「素ばなし※19」も聞けるようになります。

子どもが文字に関心をもち、読めるようになってきても、文字からの内容理解はまだ難しく、読んでもらってこそ本を楽しむことができます。親しい人の肉声による読み聞かせは、豊かな心をはぐくみ、感動を共有することで読み手との関係を深める機会にもなります。耳からの読書が大切なことを周囲の大人に伝え、十分に読んでもらえるよう働きかける必要があります。